《きっずぽけっとミニ通信　　ＮＯ．220　2023 年 11 月発行》

病気を活かす

新型コロナも５類となり、収束するかに思われましたが、ＲＳ・インフルエンザなどの感染症が従来と違う時期に流行し、しかも同時にかかるケースもあるので、受診するタイミングなど判断が難しくなりましたね。

ですが、整体では「病気は体が変わろうとするプロセス」と捉え、子どもは病気にかかりながら自己免疫力を身につけていくと考えます。

子どもは病気にかかった時大人に甘えますが、経過の最後には再び自分の足で立とうとする独立の要求が高まってきます。この独立の要求をうまく導き活用することが、子どもの成長を促すための大切なポイントです。「抱っこ」と言って甘えたときに十分抱っこすると、子どもは自分から「もういい」と離れようとしますが、その時に「もうちょっと抱っこさせて」と一つ余分に抱っこすると、子どもの独立欲求を高めることになります。

熱や病気の時は苦しいし不安で不安定な時期ですが、だからこそ周りの大人が「安心」を与えて、その経過を支えてあげる必要があります。「こんなに高い熱が出るなんて体力がある証拠だ」と誉め、「これを出し切るとぐんと成長するぞ」と励ましてあげる。大人がその現象を積極的にとらえることが、子どもの安心感を引き出すのです。

そして病気が治った時には「人のからだには自分から病気を治す力があるんだよ」ということを教えてあげる。それが子どもの自信につながりますので、病気という現象をぜひ活かしてください。

「整体的子育て」山上亮（野口整体とシュタイナー思想の観点から提唱）より